

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第2号】
平成30年
5月21日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

問題を課題として

とらえ直すこと

御殿場市教育指導センター室長

高橋 正彦



◇水田に新しく植えられた苗が風にそよいでいます。気持ちの良い季節がやってきました。

学校では、新年度が始まり一か月あまりがたちました。子どもも教師も新しい気持ちで出発したと思います。それぞれの学級や授業の様子はいかがでしょうか。

◇希望を持ってスタートした学級や授業ですが、教師の期待するようにはいかないことが多々あります。計画した通り

に進まない授業、教師の思いや願いが伝わらない生徒指導等・・・。

しかし、初めからうまくいく教師はいません。うまくいかないことを真摯に受け止めて、子どもと一緒に伸びていくのが教師の成長であると思えます。

そのためには、うまくいかない事態を「問題」でなく、自らの「課題」としてとらえ直すことが大事です。「困った」と思っているだけでも、先に進みません。教師が問題を課

題としてとらえ、課題解決の方法を考え始めることで事態が動き出します。

そんな教師の姿勢が、教師としての力量そのものであると思います。教師が動き出すと、その動きに応じた子どものかすかな表れを、子どもの良さとか教師のやりがいとして感じる事ができるようになります。教師にとって大きな喜びになります。さらに先に進むうとする勇気が生まれます。

◇教育指導センターでは、先生方と意思を共有し、支援や指導の方法を一緒に考えていきたいと思っています。

今年度は、「幼・小・中の普通学級や特別支援学級の先生方への訪問指導」「小学校一年生の授業参観」「若手・臨時講師研修会」「学年主任等研修会」

「教育情報研修会」等の研修会の開催、「夏の教育なんでも相談」「普段からの教育希望相談」「ブックレットの発刊」等の事業を行います。これらの取組を通して、先生方が少しでも力をつけてくれればと願っています。

一人でできるよ

幼稚園指導員

瀬戸 亮策



幼稚園指導員になり、入園してわずか間に、年少児が園の生活に適應していく姿を見ることができました。当初、三歳の子どもたちですから（まだまだ赤ちゃんで、園の生活に慣れるまで時間がかかるだろうな）と思っていました。ところが、赤ちゃんではありませんでした。三歳までの生活経験を土台に、子どもたちの学びは留まることなく連続していました。

家庭で培った好奇心、頑張ろうとする気持ち、我慢する

経験が、幼稚園という新しい環境でも引き継がれています。「お家の人と離れるのは悲しいけど泣かないよ。だって、みんな泣かないもん。」「今日も砂場で遊びたいな。大きなおやまを作りたいよ。」「くつをはくのも頑張るよ。みんなも一人でやってみるから。」等、子どもたちは様々な思いを持って登園しています。しかし、何といっても毎日登園できるという事は、不安よりもわくわく感の方が勝っているからです。そして、集団でみんなと同じことをする中で、自分でできることが少しずつ増えてくることに喜びと自信を感じているからだと思います。集団の中での子どもたちの学びは、先生の話を聞いてできる子もいますが、「先生をまねる」「周りの友達をまねる」ことが多いのです。そんな中で個人差があつてなかなか思うようにできない子どもがいても、担任の先生や補助の先生は急ぎ立てることなく（だんだんできるよ）にならばいい」という姿勢で保育をしています。できた時には、「先生、見て見て。」と、一人ひとりが自分のやったことやできたことを見

てほしいオーラを出していきま
す。そんなオーラをきちんと
受け止め、「すごいね」「かつ
こいい。」と先生がほめてくれ
ます。そのほめ言葉の積み重
ねが、子どもたちの自信につ
ながっているのでしょうか。
これからの訪問が、さらに
楽しみにになりました。



教育指導センターから

風薫る

小学校校のスタートで

学ぶ力を高める

教育指導センター指導員

芹澤 ゆき子

新年度がスタートして、一
か月余り経ちました。子ども
たちの様子はどうでしょうか。
生き生きとした、いい顔をし
ていますか、先生も笑ってい
ますか。

今年も、園・学校を回らせ

てもらいます。子どもたちに
出会うと、思わず顔が緩んで
しまいます。それほど、子ど
もの持つ力は個性的で魅力的
です。

幼児期に育ってほしい十の
姿が示され、幼児期から学校
教育の連続性を意識するよう
になりました。園では、この
姿を目指して、遊びの中で幼
児が主体的にもはや人とわか
られるような環境を構成して
いきます。そこで獲得した、
資質、能力が、小学校低学年
までの三つの自立につながり
ます。

これは、雨あがりの年長男
児です。



「ここは堅い」「もっと強い
棒じゃないと」「なぜ、そっち
に水が流れない」など、遊び
の中にたくさん学びがあり
ます。この環境で、何が育つ
か、何を育てるか、子どもを
見とる力、豊かな感性や豊富

な知恵、工夫などが、先生に

は必要です。では、環境が変
わる学校で、自己発揮できる
ようにするためには、どのよ
うな環境が必要なのでしょう
か。

一つ目は「安心」です。
入学時は、個人差がありま
すから、より丁寧に一から指
導してくれています。そこに、
言葉だけでなく、絵や写真な
どの提示でわかりやすく、ま
た、これまでの経験を生かす
手だてを加え「できそう」「知
っている」を引出し、「楽しさ」
につなげていくことで主体的
に取り組めます。

教科書とは別に、子どもが
描いた絵を教材にしている授
業を参観しました。

自分の絵の時はより嬉しそ
うに手を挙げ、自信を持って
発表していました。



また、「肯定的な子ども観」
も重要です。それは、先生の
笑顔と共感のまなごしです。
自己表現や学習が苦手、行動

がゆっくりなどの子どもは、
困っているのです。そんなと
きに、先生が「大丈夫だよ」
「一緒にやってみようか」な
ど声をかけてくれることで、
ほっとして先生が好きになり
ます。安定した気持ちの中で、
より自己発揮できるのです。

二つ目は、仲間作りです。
子どもは、友だちとかかわ
ることで、楽しみが倍増し、
多くの学びがあります。たく
さんのことがわかった、助け
てくれたなど、思考だけにな
く心の大きな成長を得ること
もできます。しかも、大人か
ら言われると受け身ですが、
子ども同士だと能動的で主体
的になっていきます。例えば、
ページを開くのに、先生が教
えるより、隣同士で確認する、
わかった子が周囲に教えるよ
うにしたらどうでしょう。

図工で折り紙が長く切れて
思わず比べっこをする子ども
たち。「長い、短い」「細い、
太い」などの気つきも多く出
ました。

先生もそれを見て「比べて
も面白いね」と、一緒にわか
わっていました。かわりを
経験することが、学級作りに
もつながります。大好きな仲

間がいることは様々なことを
乗り越えられる要因にもなっ
ていきます。



三つ目は「自立」です。

学校に入ると初めての事も
あるので、教えてもらうとい
う場面が多くなりますが、同
時に、子どもたちに「こんな
時はどうする」「園の時はど
うだった」「よく知っているね」
と声をかけてあげてください。
子どもたちは、「だって、一年
生だもん」と目を輝かせ、得
意げに言います。それが、未
熟ながらも園で最年長だった
時の姿で、小学校でのステッ
プアップに期待と希望を抱い
ていた頃の姿です。

「教えてやらせて褒める」
から、「待つ、見守る、任せる、
思いを引き出す」などに意識
を持ってみてください。

詳しくは、ブックレットNo.
4を、コーヒーブレイクと共
に！